

公益社団法人日本臨床細胞学会
2020年度第2回理事会 議事録

日時：2020年6月20日（土）13:00～15:00

場所：WEB会議

役員総数：42名（理事 39名、監事 3名）

出席総数：理事 35名

（理事）石井 保吉，板持 広明，伊藤 仁，伊藤 潔，井上 健，伊豫田 明，植田 政嗣，大平 達夫，小笠原 利忠，岡本 愛光，小田 瑞恵，加藤 久盛，川本 雅司，小松 京子，齋藤 豪，佐藤 之俊，生水 真紀夫，進 伸幸，竹島 信宏，田畑 務，都築 豊徳，中村 直哉，羽場 礼次，廣岡 保明，藤井 多久磨，前田 一郎，松浦 祐介，宮城 悦子，森井 英一，森谷 卓也，矢納 研二，横山 正俊，横山 良仁，若狭 朋子，渡利 英道

（監事）長村 義之，佐々木 寛，土屋 眞一

（総務委員会委員）山下 博

（総務委員会幹事）和田 直樹

（総会議長）新井 正秀

（総会副議長）田中 尚武

（制度審議委員会幹事）佐々木 陽介

（中田会計士事務所）中田 ちず子

本理事会の開催にあたり、佐藤之俊 理事長、川本雅司 副理事長

[事務局運営・編集・渉外]、齋藤豪 副理事長 [総括・財務・専門医・臨床研究]、中村直哉 副理事長 [認定試験・検査士・教育]、森谷卓也 副理事長 [学術・国際交流・IAC] の挨拶が行われた。

Web会議システムにより、出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることが確認されて、議案の審議に入った。

庶務報告（2020年6月9日現在）

全会員数：12,718名（正会員 5,680名，準会員 6,864名，名誉会員 40名，功労会員 174名，図書会員 16件）

細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：3,089名（実数）

（認定：細胞診専門医 3,730名、細胞診専門歯科医 102名）

FIAC：111名 MIAC：36名

細胞検査士数：7,831名（実数）（認定10,384名）

CT(IAC)：4,245名

物故会員（2020年3月5日～2020年6月9日）：0名

会員資格停止者

会費3年滞納者の会員資格停止が可決された。

復会希望者

春期大会・理事会にて会費滞納により退会処分されたが、復会願いを提出してきた方々（以下3名）について本理事会で復会が承認された。

- ・坂口亜寿美（順天堂大学医学部附属練馬病院 病理診断科）
- ・藤岡薫（一般財団法人慈山会医学研究所付属坪井病院 呼吸器外科）
- ・大海みどり

第61回春期大会（WEB開催、2020年6月20日（土）～7月19日（日））

佐藤之俊大会長より现阶段で既に参加登録6280名と盛会であることが報告された。

大会準備状況

第59回秋期大会（伊藤仁、パシフィコ横浜、2020年11月21日（土）～22日（日））、第62回春期大会（生水真紀夫、幕張メッセ、2021年6月4日（金）～6日（日））、第60回秋期大会（廣岡保明、米子コンベンションセンター BIG SHIP、2021年11月20日（土）～21日（日））、第63回春期大会（岡本愛光、グランドプリンスホテル高輪、2022年6月10日（金）～12日（日））、第61回秋期大会（伊藤潔、仙台サンプラザホテル・ホールメルパルク仙台およびホテル仙台ガーデンパレス、2022年11月5日（土）～6日（日））の準備状況に関する報告が行われた。

総務委員会（委員長 森井 英一）

〔報告事項〕

1. 他団体からの周知依頼に対応した
2. 緊急事態宣言中にテレワークを行うことで、残業の減少、自主的な作業習慣の定着が可能となった。

勤務予定と実績はグループウェアで日々管理。資料等のクラウド共有環境はMicrosoftのone drive、WEB会議はMicrosoftのteamsを利用して毎日10時から10時半まで。

〔審議事項〕

特になし

情報処理委員会（委員長 伊藤 仁）

〔報告事項〕

1. イエローページ掲載、情報開示の要請、その他のホームページへの掲載願いの対応を行った。
2. 中止となった第79回細胞検査士ワークショップの内容がeラーニングサイトにアップされた（教育委員会）。
3. 「新型コロナウイルスによる業務への影響についての緊急実態調査」を細胞検査士対象に行った（細胞検査士会および細胞検査士委員会）。
4. 新しいマイページの進捗状況について（事務局）。
 - 1) 基本ページのデザインと会員情報の格納データベースが完成してテスト中。
 - 2) eラーニングなどの外部機能との連携部分を作成中。新マイページのテストを兼ねて第79回、80回細胞検査士教育セミナーの募集を新マイページから行う予定。
 - 3) コロナ対応のために大会、セミナーがWEB開催になったことから新マイページの機能、構成を新たな状況に対応できるように設計を変更中。
 - 4) 上記の理由から現在のマイページへの情報掲載を当面残し9月から12月までの間に移行する予定。

〔審議事項〕

特になし

学術委員会（委員長 前田 一郎）

〔報告事項〕

1. 2020年度の以下の応募を開始しました。
 - (ア)班研究費
 - (イ)学会賞
 - (ウ)技師賞学術部門・功労部門
2. 「IAP日本支部・病理診断学術奨励賞選考委員会 外部委員の推進依頼のお願い」に対して小塚祐司先生（三重大学）を推薦した。

〔審議事項〕

特になし

計理委員会（委員長 岡本 愛光）

〔報告事項〕

1. 2020年度予算書について、3月末までに内閣府へ必要書類を提出した。

2. 秋の監査会を、9月～10月頃行う予定である。秋の監査会では、第61回日本臨床細胞学会総会（春期大会）の会計報告の確認がおこなわれる予定である。

〔審議事項〕

特になし

編集委員会（委員長 矢納 研二）

〔報告事項〕

1. 2020年6月4日現在までに25編の論文が投稿されている。（総説1編、原著6編、症例報告14編、短報3編、取り消し1編）。新型コロナウイルス感染症の影響でactivityが下がる傾向にあるなか、論文投稿に関しては例年のactivityを維持できている。
2. 電子ジャーナル化に即した投稿規定の改訂について、委員会内で6月10日に全員の承認を得た。今後、制度審議委員会で審議を受けさせて頂く予定。
3. 英文校正作業の精度向上に向けて、委員会内ワーキンググループを立ち上げ、現在作業中。

〔審議事項〕

特になし

細胞診専門医委員会（委員長 植田 政嗣）

〔報告事項〕

1. 令和2年度細胞診専門医資格認定試験（山下博 実施委員長）
新型コロナウイルスの終息が見えない中で、今年度の試験については、顕微鏡を用いた検鏡試験ではなく、浜松フォトニクスとの協力の下にバーチャルスライドで行う予定である。バーチャルスライドの動作不良対策を慎重に行い、試験本番前にシミュレーションも行う予定である。初めての試みということもあり、受験生を無制限に受け入れることは困難である。例年は130名程度の受験者であるが、今年度は、総合科100名、歯科10名を上限として募集したいと考えている（レンタルのコンピューターが60台必要）。試験期日は6月末日頃最終決定されるが、新型コロナウイルスの蔓延状況によっては翌年に延期もあり得る。
2. 令和2年度細胞診専門医資格更新
今年度の対象者ナンバーは、0684-0773、1102-1170、1387-1446、1647-1710、2029-2159、2477-2577、2850-2961、3223-3325、8041-8045である。今年度は5年毎更新の新単位制度による初めての資格更新となる。
3. eラーニングについて
eラーニングシステムを構築し2019年2月より運用を開始した。現在までに共通講習22コンテンツ（含 指導医講習4コンテンツ）、領域講習25コンテンツ、検査士講習

3 コンテンツをアップした。2020年5月31日までの累積閲覧数は3707（ビュー）、単位販売数は175（単位）×4,000円＝700,000円（税抜き）である。

〔審議事項〕

特になし

施設認定制度委員会（委員長 廣岡 保明）

〔報告事項〕

1. 2020年度新規施設認定について ※締切：2020年4月30日（木）
現在までに、17施設の申請があった。後日審査会にて審査を行う。
2. 2020年度新規教育研修施設認定について ※締切：2020年4月30日（木）
現在までに、3施設の申請があった。後日審査会にて審査を行う。
3. 2019年度施設年報提出状況 ※締切：2020年3月31日（火）
全852認定施設中 提出済：836施設（98.1%）、未提出：16施設（1.9%）
4. 2019年度教育研修施設年報提出状況 ※締切：2020年3月31日（火）
全327認定施設中 提出済：322施設（98.5%）、未提出：5施設（1.5%）
5. 2020年度認定施設更新状況 ※締切：2020年3月31日（火）
全65施設中、更新可：61施設（93.8%）、未完了：1施設（1.5%）、辞退：3施設
6. 2020年度教育研修施設更新
2020年は更新無し。
7. 内部精度管理（実地調査）について
2019年度内部精度管理は、施設認定制度委員会内の内部精度管理ワーキンググループ（浦野誠WG長）のもとで4施設（年報未提出施設2、新規認定施設2）を対象として実施（2019年10月-12月）
対象施設：医療法人厚生会福井厚生病院、大分赤十字病院、国立国際医療研究センター病院、南砺市民病院
結果は、国立国際医療研究センター病院が「違反」であり、違反内容は(1)認定証紛失、(2)専門医不在、であるため、是正を勧告した。それ以外は「良」であった。調査結果は各施設に送付済み。
今後、是正勧告にしたがって是正されたかどうかを調査予定
2020年度内部精度管理については、今後、施設認定制度委員会内の内部精度管理ワーキンググループ（浦野誠WG長）のもとで調査施設の検討、調査員の決定を行う予定
8. 外部精度管理（コントロールサーベイ）について
2020年度8度目となるコントロールサーベイは、施設認定制度委員会内の外部精度管理ワーキンググループ（湊宏WG長）のもとで実施し、集計結果と解説は2021年3月にはホームページにて閲覧可能とする予定。参加施設にはその際、参加証明書を送付予

定。

現在、問題、解答を作成中

9. 以下の検討事項を現在施設認定制度委員会で審議中である。審議を終えたら理事会に諮る。

- ・施設認定に関する施行細則の整理について
- ・施設認定に関する施行細則・附則と精度管理ガイドラインの整理について
- ・施設認定に関する申請料について

〔審議事項〕

特になし

細胞検査士委員会（委員長 加藤 久盛）

〔報告事項〕

1. 2020年3月7日（土）に第53回細胞検査士資格認定試験第1回運営委員会が開催され、今後のスケジュール等を予定した。しかし今後の緊急事態宣言などの社会情勢を見ながら延期の可能性も検討した。

一次試験は2020年10月31日（土）にCIVI新大阪東+別会場の2会場に増やし受験生の間隔を取れるよう準備

二次試験は2020年12月5日（土）6日（日）に東京富士大学において実施する予定。

2020年6月末の社会情勢を踏まえ予定通り実施するか判断予定。

延期の判断となった場合は

一次試験 2021年2月27日（土）同じ会場

二次試験 2021年3月13日（土）14日（日）同じ会場 それぞれ仮予約済

※新型コロナウイルス感染症第2波・第3波到来時の緊急判断・決定は細胞検査士委員会委員長と理事長で行う。

2. 2020年CT（IAC）資格認定試験は実施の予定なし

3. 細胞検査士会員を対象に「新型コロナウイルスによる業務への影響について緊急実態調査」を2020年5月1日より細胞検査士会と細胞検査士委員会の連名で行っている。

〔審議事項〕

特になし

細胞検査士資格更新審査委員会（委員長 羽場 礼次）

〔報告事項〕

2019年細胞検査士資格更新処理状況（2020/6/9時点）

2019年度 細胞検査士資格更新者（ピンクカード）

全更新対象者数：1637名

更新可 1566名 (95.7%)

条件付更新可 9名 (0.5%)

保留更新 3名 (0.2%)

最終確認無応答で期限までに手続きされず資格失効 13名 (0.8%)

更新辞退 26名 (1.6%)

退会済 19名 (1.1%)

逝去 1名 (0.1%)

2月に行われた更新審査会の審査結果では、地域連携組織への所属要確認・カード等不備有で11名が更新未完了となっていたが、その後地域連携組織への所属確認及び不備の訂正が完了し、11名全員の更新処理が完了した。

〔審議事項〕

特になし

教育委員会（委員長 生水 真紀夫）

〔報告事項〕

- 1) 第45回細胞診断学セミナーのweb開催の可能性について検討した。
- 2) 第79回細胞検査士教育セミナー、第80回細胞検査士教育セミナーについてWeb開催の方向で準備を行うことになった。

〔審議事項〕

- 1) 細胞診断学セミナー中止を受けて、代替としてのWeb開催の可能性を検討した。現状で可能と思われる方法は、各講師により作成されたPPTを用いた講義コンテンツを視聴してもらい、その後の確認テストを実施する方法である。開催を承認するかどうか検討いただきたい。

→承認。開催にあたって本理事会で決定したことは次の通り。

- ・鏡検の代わりになるよう、各講師に作成いただく講義コンテンツ中に細胞像の写真を豊富に取り入れていただく。参加者は、講義に加え、鏡検に相当する学習も行ったとみなし、細胞診専門医受験資格の副論文1編になるという基準を本セミナーにも適用する。
- ・費用が安くて、受講者のメリットも高い、オンデマンド配信で行う。

本件に関する継続審議事項は次の通り。

- ・Webシステムの業者選定：本学会で既に構築されているe-learningシステムを活用することを含め、教育委員会で引き続き検討して頂く。
- ・受講料/参加費：一人当たり6万円を参考金額として、教育委員会で引き続き検討して頂く。

渉外・広報委員会（委員長 小田 瑞恵）

〔報告事項〕

1. 会員へのメール配信等について

定期配信；日本臨床細胞学会誌が HP に掲載された、会員へ目次等の一斉メール

① 国際病理アカデミー（IAP）日本支部より、「2020 年 IAP 日本支部・病理診断学術奨励賞の公募要項」の HP 掲載依頼があり掲載した。

② 法人医療科学研究所事務局より、「医療科学研究所 2020 年度研究助成募集のご案内」の HP 掲載依頼があり掲載した。

2. 他学会等との会議出席等について

①一般財団法人 医療関連サービス振興会 令和 2 年度第 1 回衛生検査所調査指導中央委員会・専門部会による 6/1 付けのサービスマーク認定に係る審議等は、緊急事態宣言発令のため委員長・部会長の一任による審議・決定により認定することになり、委員長による審査と理事長の決裁を経て更新 5 件 新規 1 件すべて承認された。

②一般財団法人 医療関連サービス振興会 「医療法改正に伴うチェックリスト改定ワーキンググループ」会議（第 6 回；4/15 開催予定 第 7 回；4/27 開催予定）は緊急事態宣言発令にて延期され、今後の開催予定は未定。

③日本臨床検査標準協議会より緊急事態宣言発令のため、特定費営利活動法人第 15 期総会及び公益社団法人定期総会の委任状による議決権行使の依頼があり、委任状による議決権を行使した。

〔審議事項〕

特になし

社会保険委員会（委員長 若狭 朋子）

〔報告事項〕

6 月 5 日 内保連から「2020 年度診療報酬改定における不合理や矛盾点」のアンケート調査があり、細胞診に関連した 3 項目について提出した。具体的には以下の通り。

①注 2 に「病理診断を専ら担当する医師が勤務する病院又は病理診断を専ら担当する常勤の医師が勤務する診療所である保険医療機関において、区分番号 N 0 0 3 - 2 に掲げる迅速細胞診若しくは区分番号 N 0 0 4 に掲げる細胞診の 2 により作製された標本に基づく診断を行った場合又は当該保険医療機関以外の保険医療機関で作製された標本に基づく診断を行った場合に、これらの診断の別又は回数にかかわらず、月 1 回に限り算定する。」とあり、「1 婦人科材料等によるもの」には算定できない。保険医療機関内で行われる婦人科細胞診の多くは、診断目的で行われており、診断料が請求できないのは不合理極まりない。→次回診療報酬改定時に「同一医療行為は同一点数とする」ことを期待する。

②平成24年改定で記載された病理診断管理加算は、精度管理的意味あいをなし、病理診断料を算定した場合に加算される。全症例が診断扱いとなる組織診断では問題は生じないものの、細胞診の場合、細胞診断料が算定できない比率が高く（特に婦人科細胞診）、対象外になっている。しかし精度管理はその施設の全症例に対して同様に行われる行為であり、一部の検体だけ精度管理を行わない、ということは不可能であり、大きな矛盾を抱えている。→次回診療報酬改定時に「細胞診検体全例への病理診断管理加算の算定」を期待する。

③「N003 -2 迅速細胞診迅速細胞診は、手術、気管支鏡検査（超音波気管支鏡下穿刺吸引生検法の実施時に限る）又は内視鏡検査（膵癌又は胃粘膜下腫瘍が疑われる患者に対して超音波内視鏡下穿刺吸引生検法の実施時に限る）の途中において 腹水及び胸水等の体腔液又はリンパ節穿刺液を検体として標本作製及び鏡検を完了した場合において、1手術又は1検査につき1回算定する」とあるが、この文言では、「膵癌又は胃粘膜下腫瘍が疑われる患者」への迅速細胞診は腫瘍本体ではなく、リンパ節転移巣への穿刺を行ったときのみ算定できるとなります。膵癌、胃粘膜下腫瘍が疑われる患者に対して超音波内視鏡下穿刺は腫瘍本体に対して行うことがほとんどであり、リンパ節を穿刺することは事実上ほとんどなく、実質上、算定できないという矛盾がある。→次回診療報酬改定時に「腹水及び胸水等の体腔液、リンパ節穿刺液、または腫瘍穿刺液を検体として」とし、腫瘍穿刺液を対象に追加することを期待する。

〔審議事項〕

特になし

地域連絡委員会（委員長 伊藤 潔）

〔報告事項〕

1. 2018年度都道府県地域連携組織・連合地域連携組織活動報告の回収および集計を行った。
2. 子宮頸がん検診推進活動支援について：
 - 1) 2019年度の活動支援を行った。
各地域学会（46件）に、合計2,122,958円を支援した。
 - 2) 2020年度の子宮頸がん検診推進活動支援について
各地域学会に申請希望について書類送付し、希望地域には企画書の提出を依頼している。支援費用については5万円を上限とする。
3. 細胞診に関する公益事業（公開講座等）の募集について（2019年度）
2019年4月に公募開始し、7月末まで、4件の応募があり、いずれも採用。
11月末まで追加募集を行い、2件の応募があり、いずれも採用。
ただし1件は、その後、中止となった。

4. 学会 HP におけるマイページへのアドレス登録状況、ログイン状況を集計した（2020 年 5 月 19 日現在）。

〔審議事項〕

特になし

国際交流委員会（委員長 榎本 隆之 代理 西野 幸治）

〔報告事項〕

1. JHU-ASC-JSCC 合同ワークショップ 2020 の実施について
・関係者間で日程・会場の調整を行い、2020/11/28（土）・11/29（日）／日本教育会館を予定していたが、米国講師の都合もあり再調整

日程；2021/3/27（土）・3/28（日）

会場；がん研究会有明病院 吉田講堂

しかし、COVID-19 の状況により、吉田講堂が「外部からの見学者・研修者の受入は無期限延期」の状態。他会場を再々調整中

2. ECC2020 の延期（→ECC2021）について
Companion Meeting Japan in ECC 2020 ;
2020 年 10 月 4 日(日)～7 日(水) ポーランド・ヴロツワフ の予定であったが、

Companion Meeting Japan in ECC 2021 ;
2021 年 10 月 3 日(日)～6 日(水) ポーランド・ヴロツワフ に延期

〔審議事項〕

特になし

制度審議委員会（委員長 宮城悦子）

〔報告事項〕

1. 下記の前回理事会承認の 2 案件について委員会内メール審議を行い、特段の異議なく議事録を作成した。
 - ① 知的財産権保有の放棄を 2020 年 4 月 11 日～17 日
 - ② 学術集会のあり方・申し合わせを 2020 年 4 月 14 日～17 日
2. 上記 2 案件を細則集・内規集に反映させた。
 - ① 知的財産権保有の放棄（定款・施行細則 p.14 定款細則 第 12 章）

② 学術集会のあり方・申し合わせ（内規・申合せ集 p.46）

〔審議事項〕

特になし

医療安全委員会（委員長 藤井 多久磨）

〔報告事項〕

第 61 回日本臨床細胞学会春期大会において、医療安全セミナーを近江八幡市立総合医療センター 診療部病理診断科の細川洋平先生が（地域中核病院における学ぶ組織作りと医療安全活動—病理医としての 15 年の取組—）で開催予定である。

〔審議事項〕

特になし

倫理委員会（委員長 竹島 信宏）

〔報告事項〕

1. 第 61 回日本臨床細胞学会春期大会の医療倫理セミナー(Web)において、以下の内容を行う予定。

査読盗用事例の学会員への周知 10 分

谷川輝美 先生（がん研有明病院婦人科）

「医療倫理の判断要因の諸相」 50 分

栗原健二 先生（麻生・栗原法律事務所）

2. 日本臨床細胞学会における学会発表の倫理規定について、現在委員会内で検討中。意見が集約でき次第、理事会に提出予定。

〔審議事項〕

特になし

利益相反委員会（委員長 板持 広明）

〔報告事項〕

1. 前回の理事会で、「利益相反自己申告書」を再提出された小谷昌子氏を倫理委員会（外部委員）委員として再承認することが可決された。

2. 2020 年 3 月中旬に送付した「利益相反自己申告書」は、対象者 115 名全員提出済み。後日、委員長が、事務局にて内容を確認する予定。

〔審議事項〕

特になし

臨床試験審査委員会（委員長 田畑 務）

〔報告事項〕

特になし

〔審議事項〕

特になし

IAC 連絡委員会（委員長 青木 大輔）

〔報告事項〕

1. 第 21 回国際細胞学会 ICC2022 が第 70 回米国細胞病理学会との併催で 2022 年 11 月 14 日から 19 日まで米国メリーランド州ボルチモアにて開催される。the 70th Annual Scientific Meeting of the American Society of Cytopathology と同時開催

〔審議事項〕

特になし

臨床試験ワーキンググループ（委員長 進 伸幸）

〔報告事項〕

1. 『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診とHPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究（CITRUS study）』（山梨県、千葉県柏市）の継続

本年も昨年に引き続き研究事業を継続することが報告された。

2. 『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診とHPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究（CITRUS study）』

研究の進捗状況が報告された。

〔審議事項〕

特になし

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ（委員長 森井 英一）

〔報告事項〕

1. 会議を行い、実証実験の計画を立てた。

2. 多施設共同研究の倫理審査について、北海道大学を主施設として承認され、他、国立がん研究センターについて申請準備中。
3. メンバー施設において実証実験を行っているところである。細胞株が必要な施設には配布した。

〔審議事項〕

特になし。

ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ
(委員長 佐藤 之俊)

〔報告事項〕

1. コロナウイルス感染期のため各委員間で電話、およびメール会議を行った。
2. ワーキンググループ内の計画におけるそれぞれの作業工程を確認した。
3. 各委員間で精度管理に関係する実験の備品購入を研究費から支出した。

〔審議事項〕

特になし

肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ (委員長 佐藤 之俊)

〔報告事項〕

1. 本 WG において新たな 4 段階の判定基準を提案し、それに基づく診断の検討を Acta Cytologica に投稿し revise ののち accept された。
2. 国際的な Steering Committee を組織し、国際基準作成作業を進めている。

〔審議事項〕

特になし

IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ (委員長 森谷 卓也)

〔報告事項〕

1. 川崎医科大学を主施設として多施設共同研究を行う。現在川崎医科大学の倫理承認が得られ、各施設で倫理審査を申請中。
2. 全施設の倫理審査が承認され次第、リングスタディを開始する。

〔審議事項〕

特になし

細胞診専門医教育研修指導要綱改定ワーキンググループ（委員長 安田 政実
代理 山下 博）

〔報告事項〕

特になし

〔審議事項〕

特になし

評議員選出委員会：2021・2022 年度日本臨床細胞学会評議員候補者について

〔報告事項〕

次期評議員申請に関しては、COVID-19 対策による申請遅延の可能性を考慮し、締め切り日を1週間延長し、最終的に締め切りまでに書類条件をクリアした申請者は515名であった。評議員選出委員会で検討の結果、現況では453名を評議員候補者とした（定数は452名であったが、2名分の申請書を1名が代表してメール添付した例があり、事務処理は1名分として1名のみ審議。452名を委員会が決定し、候補者に通知を行った後に、当該申請者から問い合わせがあり、1名分の審議がされていないことが判明。申請書をチェックし、十分な資格を有していることがわかり、追加合格とした）

〔審議事項〕

上記の次期評議員候補者について→承認

その他の審議事項：2023 年度（第 64 回）春期大会長選出について

藤井多久磨 理事が選出された。

※学術集会長候補者の選出メンバーは以下のとおりであり、選出作業は本理事会開催前に前もって行われた。

理事長 佐藤之俊

前理事長 青木大輔

副理事長 川本雅司、齋藤豪、中村直哉、森谷卓也

学術委員会委員長 前田一郎


（役員等選任に関する施行細則第2条より）


以上で本理事会の議題が終了し、川本雅司 副理事長の閉会挨拶をもって本理事会を終了した。

2020 年 11 月 21 日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 佐藤 之俊 

監事 長村 義之 

監事 佐々木 寛 

監事 土屋 眞一 